



坂本龍馬 59

おしどり夫婦が

龍馬を語る

出前授業続ける有安さん

教壇が
舞台!

日本や海外のことを広く学ぶにはまず、地域のことを積極的に知ってもらいたい。そんな思いから県内各地で郷土学習の出前授業に取り組む夜須町の有安文昌・女汲夫妻を紹介しします。

呼吸びったり

「龍馬さん」の呼びかけに、着物姿の坂本龍馬が教室に登場した。胸には女汲さん手作りの坂本家の家紋「違い升に桔梗」。子どもたちも驚いた様子で出前授業に引き込まれていった。「乙女姉やん」に聞こえる鏡川での水泳特訓では、姉やんに竹ざおで吊り上げられた龍馬に大笑い。千葉道場佐那さんとの初手合わせは、迫力満点の寸劇に興味津々!

二人の掛け合いは、抑揚や間の取り方も絶妙で、さらに話に沿って登場人物の顔絵カードが出てきたり、話の要点を黒板にまとめたり本当に分かりやすい。有安さん夫妻はどちらも元教員で、話の進め方から子どもたちが興味を持つ『小物』の使い方まで、全くのプロ。流れるような授業に子どもたちは時間が経つのを忘れていた様子。

各地で二百五十回以上

文昌さんがこの活動を始めたのは十五年前。六年前から教員を退職した女汲さんと二人の授業を始めた。「退職したら地域に何か恩返しを」と考えていた女汲さんは、文昌さんから誘われるとすぐに出前授業を引き受けた。最初はなかなか連携がうまくいかず、反省を重ねる日々。「今や」と二人で一人前と女汲さんは謙遜する。

二人の授業は内容豊か。幼稚園では、おねじょたれの龍馬が大きくなくていい姿、小学校高学年や中学校では、身分制度に

◆頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介しします。担当/島崎則彦

反発し世直しに奔走する龍馬、企業研修では、亀山社中を設立した龍馬の経営感覚と聴衆に合わせた題材を変えて紹介する。女性会や老人クラブ、教職員研修会などにも出向き、今では年間三十回、トータルなんと二百五十回を超す活躍ぶりだ。

活動の拠点

文昌さんは、また若い教員時代に社会科の副読本「ものべ川」の編集に携わった。そこで郷土学習の魅力や大切さを知る。また退職後、龍馬記念館の学芸員の時代にも今の活動に通じる経験を重ねる。

博物館はどこでも、従来は資料を揃えて入館者を待つという姿勢だった。そこで普及活動として、記念館の一角に絵や図を取り入れた子ども向けの展示コーナーを設け、「坂本龍馬を知ちゅう?」資料集を発刊し、高い評価を受けた。改革に取り組む中で「やはり待っているのではなく積極的に外へ出よう」と、学校での郷土学習に力を注いできたのが「龍馬授業」の原点だ。「夫婦で授業計画を立てたり資料を作ったり。もちろん子どもたちの前で話をする時も、この上なく幸せを感じます。笑顔で話すお二人は、絵に描いたようなおしどり夫婦。「呼ばれたらいつでも出て行く」と文昌さん。市民の皆さんも一度「平成のおしどり龍馬」に会ってみませんか。



編集後記

▼溢れんばかりの笑顔で歌う「うみ」さん。幼少期に悲しかったこと、大学時代につらかったことがあったなんて思いも寄らなかつた。でも、そんなことを笑い飛ばしながら元気な歌声でパワーを届ける彼女。私も頑張るさね! (猪)

▼「奪い合えば足りないが分け合えば余る」。被災地で実践されていた被災者の方たち。あなたたちは日本の誇りです。「プラウド・ジャパン」は、日本語で「誇り高き日本」堂々たる日本」といった意味。復興(幸)するまで、東日本を応援しようと思う。(m)

▼あめ模様をあじさい街道。じつとカメラを構えて瞬撮する人や、仲良く手を繋いで散策するカップルの姿がありました。さわやかな小川には、ホタルが華麗にダンスする光景も。いつまでも残したい香南の自然の1ページです。(S)

▼今年も暑い夏がやってきました!この夏のキーワードは「節電」。エアコンに頼らず、風鈴、浴衣、扇子、そうめんなど、五感で「涼」を感じてみませんか?日本ならではの四季を感じながら、汗をかきつつ夏の暑さを楽しみましょう。今月号の「夏祭り情報」・「夏ナビ2011」もぜひ活用ください。(あ)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.lg.jp

http://www.city.kochi.konan.lg.jp